

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ

Ciné-là

シネラ・ニュース
May.2002 No.69

特集

マゾド・マゾディ監督特集

特集

インドネシア映画特集



『天使のような子どもたち』 イラスト:花野孝史

4

特集 80年代後半から90年代の
インドネシア映画の傑作を特集。

インドネシア 映画特集

会 期：3日(水)～7日(日)

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の
方は半額。(手帳の提示が必要です。)

知られざる
インドネシア映画の傑作「母」

今回特集する5本のインドネシア映画は、80年代後半から90年代前半までの傑作・秀作を集めたものである。インドネシア映画は80年代には多くの作品が作られていたが、90年代当初から急速に製作本数が激減し、年間数本という状態が長く続いている。いわばインドネシア映画が輝いていた時代の作品である。

80年代最高の傑作と言って良いだろう「チュ・ニャ・デイン」や、世界が注目するインドネシアの監督であるガリン・ヌグロホの長編映画監督デビュー作「一切れのパンの愛」は、インドネシア映画史の中でもはずせない作品だが、特に注目していただきたいのは、今回が日本初公開となるトゥグ・カルヤ監督の「母」である。

トゥグ・カルヤ監督は70年代から活躍したインドネシア映画の巨匠だが、「母」は興行的に失敗し、あまり注目されなかった。しかし作品の質と興行成績は必ずしも一致しない。様々な問題を抱える子ども達のために、年老いた母親が奮戦する姿を静かな口調で語る本作は、インドネシアの家族像を端的に描いており、おそらくトゥグ・カルヤ監督の代表作であると同時に、80年代のインドネシア映画の中でも最良の一本である。

ぜひご期待いただきたい。

3 水曜日
19:00

母

7 日曜日
11:00



日本語字幕付き

監督：トゥグ・カルヤ

出演：トゥンティ・インドラ・マラオン
アレックス・コマン

1986年/35ミリ/カラー/103分/インドネシア

Ibunda

未亡人ラヒムには子ども達に関する悩みがあった。一つは息子で俳優のフィカルの浮気であり、もう一つはまだ学生である娘の交際相手のことだった。母と子ども達の交流を淡々と描いた本作は、インドネシアの巨匠トゥグ・カルヤの代表作であり、インドネシア国内映画祭では作品賞などを獲得した傑作。

4 木曜日
14:00

チュ・ニャ・デイン

Tjoet Nja' Dhien

7 日曜日
15:00



日本語字幕付き

監督：エロス・ジャロット

出演：クリスティン・ハキム

スラメット・ラハルジョ・ジャロット

1988年/35ミリ/カラー/133分/インドネシア

19世紀後半、スマトラ島北部のアチェ王国の指導者トゥク・ウマールとその妻チュ・ニャ・デインのオランダとの戦いを描いた作品。チュ・ニャ・デインは独立戦争の英雄として今も多くの人敬愛されている。気丈なチュ・ニャ・デインをクリスティン・ハキムが熱演し、80年代を代表するインドネシア映画の傑作となった。

5 金曜日
19:00

ヌサ・フニダ島

Penida Island

6 土曜日
11:00



日本語字幕付き

監督：ガレブ・フシン

出演：イダ・アユ・ディアステニ
ライ・サヘタビ

1989年/35ミリ/カラー/113分/インドネシア

20世紀初めのバリを舞台にした作品。バリのタナバン王が殺害され、幼い王女バンダン・サリは忠臣イ・ムルダによって漁村で育てられる。成長したバンダン・サリはイ・ムルダの息子のジャヤと恋に落ちるが、二人の恋は許されない。89年インドネシア映画祭で最優秀撮影賞を受賞。

3 水曜日
14:00

一切れのパンの愛

Love in a Slice of Bread

6 土曜日
15:00



日本語字幕付き

監督：ガリン・ヌグロホ

出演：ティオ・バクサデウォ
アジ・マッサイド

1991年/35ミリ/カラー/97分/インドネシア

「枕の上の葉」等でインドネシアを代表する映画監督に成長したガリン・ヌグロホの長編デビュー作。都市に住むヤングエリートを主人公に据え、心の内面や精神的トラウマを描いた本作は、インドネシア映画のニューウェーブとして東京国際映画祭ヤングシネマ部門で受賞し、世界的に注目を浴びることとなる。

4 木曜日
19:00

ラマダンとラモナ

Ramadhan and Ramona

5 金曜日
14:00



日本語・英語字幕付き

監督：ハエルル・ウマム

出演：ジャマル・ミルダット
リディア・カンダウ

1992年/35ミリ/カラー/87分/インドネシア

ラマダンはマレーシアの大金持ちの一人息子で、退屈な日常生活にうんざりしていた。ラマダンは理想の女性を探してジャカルタにやってくる。そしてデパートで働くラモナに出会う。ラモナに求愛するラマダンだが、ラモナは金持ちを嫌い、なかなかラマダンを受け入れない。コミカルな味わいの洒落たラブストーリーである。

マジド・マジディ監督特集

イラン映画の巨匠マジド・マジディ

今最も世界で注目されているアジア映画の監督を考えたとき、マジド・マジディの名前をはずすことはできないだろう。イラン映画の巨匠はアッバス・キアロスタミやモフセン・マフマルバフなどの名前がすぐに浮かぶ。それに続くのは間違いなくマジディ監督であろう。

マジディ監督は最初は俳優として映画界に入っているため、92年の「バダック」が長編映画の初監督作品となる。そして昨年の「バラン」(この秋公開予定)までこれまで5本の作品を監督している。監督としてはわずか10年のキャリアであるが、97年の「天使のような子どもたち(運動靴と赤い金魚)」が、アカデミー賞外国語映画にノミネートされ、そして「天使のような子どもたち(運動靴と赤い金魚)」から「バラン」まで3作品連続でモントリオール世界映画祭グランプリを獲得するなど、その活躍はすでに巨匠の域に達している。

日本国内でも「天使のような子どもたち(運動靴と赤い金魚)」と「カラー・オブ・パラダイス(太陽は、ぼくの瞳)」が続けてロードショーされ、多くの映画ファンを獲得している。またロードショーが待ち望まれる最新作の「バラン」ではアフガニスタンからの難民問題に挑み、ニューヨークのテロ事件とタイミングが重なったこともあり、世界中から大きな注目を集めることとなった。

今回上映する4作品により、監督デビューから10年間の軌跡を追うと共に、機知と優しさ、美しさに満ちたマジディ監督の世界を堪能できることと思う。



◎ カラー・オブ・パラダイス

会 期：24日(水)～
29日(月・祝)

観覧料：500円(大人)
400円
(大学生・高校生)
300円
(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

24 水 14:00
28 日 15:00
29 月祝 11:00

太陽は、ぼくの瞳
(劇場公開時タイトル)

カラー・オブ・パラダイス

Color of Paradise

監督：マジド・マジディ
出演：ホセイン・マージュブ
モフセン・ラマザニ



日本語・英語字幕付き

テヘランの言学校で学ぶ8歳の少年モハマドは、父に連れられて故郷の村に帰る。父はモハマドの手に職をつけさせようと住み込みの仕事に出そうとする。一方モハマドの祖母はモハマドを家において面倒を見ようとするが…。『太陽は、ぼくの瞳』という題で劇場公開された傑作。

1999年/35ミリ/カラー/90分/イラン

24 水 19:00
27 土 11:00
29 月祝 15:00

天使のような子どもたち
(劇場公開時タイトル)

Children of the Heaven

監督：マジド・マジディ
出演：モハマド＝アミル・ナージ
バハレ・セッデギ



日本語・英語字幕付き

アリは妹の靴を不注意でなくしてしまふ。家が貧しく親に言い出せない兄妹は、相談してアリの靴を交互に履いて学校に行く。ある日マラソン大会の三等の賞品が運動靴であることを知ったアリは、妹のためにマラソン大会に出場する。『運動靴と赤い金魚』という題で劇場公開され、大評判となったイラン映画の傑作。

1997年/35ミリ/カラー/88分/イラン

25 木 19:00
26 金 14:00
28 日 11:00

父

The Father

監督：マジド・マジディ
出演：ハッサン・サデギ
モハマド・カセビ



日本語・英語字幕付き

少年メヘロラは出稼ぎから帰ると母が再婚していることを知る。裏切られた気持ちのメヘロラは友人と共に家出をする。母の再婚相手はメヘロラは探したし、家に連れて帰ろうとするが二人の乗ったバイクは砂漠の中で故障してしまふ。マジド・マジディ監督の2本目の監督作品で、義父とメヘロラの交流が力強く描かれる。

1996年/35ミリ/カラー/95分/イラン

25 木 14:00
26 金 19:00
27 土 15:00

バダック

Baduk

監督：マジド・マジディ
出演：モハマド・カセビ
メヘロラ・マザルゼヒ



日本語字幕付き

バダックとは、イラン南部のバルチスタン地方で、パキスタンから密輸品を運び込む人々のことである。父親が亡くなって村を出たジャファルとジャマルの兄妹は、見知らぬ男に騙され、密輸商人に売られて、密輸の仕事にさせられる。世界的巨匠となったマジド・マジディ監督の長編映画監督デビュー作。

1992年/35ミリ/カラー/86分/イラン

1月	休館日	
2火	休映日	
3水	14:00 一切れのパンの愛	19:00 母
4木	14:00 チュ・ニャ・ティン	19:00 ラマダンとラモナ
5金	14:00 ラマダンとラモナ	19:00 ヌサ・ブニダ島
6土	11:00 ヌサ・ブニダ島	15:00 一切れのパンの愛
7日	11:00 母	15:00 チュ・ニャ・ティン
8月	休館日	
9火	休映日	
10水	映像ホール・シネラは、 4/10(水)~4/21(日) の期間、施設設備・フ イルムの定期点検の ため休映します。	
11木		
12金		
13土		
14日		
15月		
16火		
17水		
18木		
19金		
20土	福岡市総合図書館は、 4/10(水)~4/19(金) の期間、特別整理・点 検のため休館します。	
21日		
22月		
23火		
24水		
25木		
26金		
27土		
28日		
29月祝		
30火	月末休館日	

懐かしい映画館

昭和

30年代の子供達にとって、映画は夢の世界、「映画スター」は、昨今の「タレント」とは全く違う、文字通り天にきらめく星でした。

当時ちよつとした町には、映画館がありました。座席は前から後ろまでほとんど段差のない床にならんでいたため、子供にとって、前の席にどんな人が座るかは大問題でした。だから、ちよつと気の利いた子供は、通路際の席を取ったものです。そこなら、前に大男がでんと座っても、少し身体を傾げるだけで画面が見えましたから。

大抵の映画は2本立て、3本立てで、それとも何度見直してもOKという気前の良さでした。今みたいに1本だけ麗々しく上映して、終了と同時に総入れ替えなんてしなかったことはしていませんでした。

ただ、映画館の規模が小さい割に映画人口が多かったせいか、人気番組がかかると、立ち見の人も沢山出ました。誰も文句も言わず、立ちっぱなしで見ていたものです。子供達は、親が床に敷いてくれた新聞紙に大人しく座って見てました。

当時は、勧善懲悪の時代劇が人気でした。善と悪がはっきりしていて疑問の余地のないストーリーが多かったように記憶しています。悪徳商人と癒着した悪代官、はたまたお家乗っ取りを画策する悪家老の一派、それに対するのは、綺麗で可憐なお姫様とそれを助ける心正しい若衆です。

善玉があわやというところに捕方たちが駆けつけてくるシーンでは、子供ばかりではなく、大人からも大きな拍手が湧いたものです。みんな正義の味方だった。いつも善は美しく、悪は汚かった。古き良き時代でした。



今、そのころとは比べものにならない派手なエンターテインメントが国の内外で作られ公開されています。子供達も夢中で画面を見つめます。でも、何だか次第に善は精彩を欠き、悪が強く生き生きと描かれることが多くなっているような気がします。今、子供たちの心を捉えるのは、より魅力的な悪の方かもしれません。

今の子供達は、あのころの子供達のように、映画館で単純に泣き、笑い、正義感に燃えることができるのでしょうか？

映像資料課 樋口伴子

お知らせ

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成14年5月号~平成15年3月号までの郵便切手(90円×11ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

5月2日(木)~12日(日)

特集「今井正監督特集」

戦後、小津や溝口と並び称された巨匠・今井正監督の代表作の特集。

「青い山脈」「続青い山脈」「また逢う日まで」「ひめゆりの塔」「ここに泉あり」「真昼の暗黒」



ひめゆりの塔

5月15日(水)~26日(日)

特集「韓国の名優 金勝鎬と崔銀姫」

50年代から60年代の韓国映画で、大衆の心を捕らえた名男優キム・スンホ(金勝鎬)と名女優チェ・ウニ(崔銀姫)の出演作の特集。

「心の故郷」「お金」「ロマンス・パパ」「成春香」「荷馬車」「離れの客とお母さん」「常緑樹」「米」



心の故郷



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンタ(電話 733 3333)に直接お問い合わせください

編集雑誌

前半は「インドネシア映画特集」。「母」は日本初公開、「ヌサ・ブニダ島」は福岡初公開。是非、お楽しみに。後半は「マジド・マジディ監督特集」。すでに巨匠と呼べる監督だが、昨年のテロ事件の最中にも、カナダからアジア・フォーカス福岡映画祭に来福。多忙の中、当館のインタビューにも快く対応していただけるなど、その人柄も素晴らしい。人柄同様、優しさに溢れた映画をご堪能あれ。(H.M)

280 古紙配合率80%再生紙を使用しています。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>